

第3回 バードウォッチング検定「身近な野鳥コース」

正解と解説

B

(財)日本野鳥の会

| 問題番号 | 正解 | 問題番号 | 正解 | 問題番号 | 正解 |
|------|----|------|----|------|----|
| (1) | b | (32) | c | (63) | c |
| (2) | c | (33) | b | (64) | a |
| (3) | b | (34) | a | (65) | a |
| (4) | d | (35) | b | (66) | b |
| (5) | a | (36) | a | (67) | a |
| (6) | b | (37) | a | (68) | b |
| (7) | b | (38) | c | (69) | a |
| (8) | a | (39) | c | (70) | c |
| (9) | b | (40) | a | (71) | c |
| (10) | d | (41) | b | (72) | a |
| (11) | b | (42) | c | (73) | c |
| (12) | b | (43) | b | (74) | a |
| (13) | a | (44) | c | (75) | b |
| (14) | c | (45) | c | (76) | d |
| (15) | a | (46) | d | (77) | b |
| (16) | d | (47) | d | (78) | c |
| (17) | c | (48) | b | (79) | c |
| (18) | a | (49) | d | (80) | a |
| (19) | c | (50) | a | (81) | a |
| (20) | c | (51) | c | (82) | b |
| (21) | b | (52) | c | (83) | a |
| (22) | c | (53) | a | (84) | b |
| (23) | c | (54) | b | (85) | a |
| (24) | c | (55) | c | (86) | d |
| (25) | a | (56) | c | (87) | d |
| (26) | b | (57) | b | (88) | d |
| (27) | d | (58) | a | (89) | c |
| (28) | b | (59) | b | (90) | c |
| (29) | b | (60) | a | (91) | d |
| (30) | b | (61) | b | (92) | b |
| (31) | c | (62) | a | (93) | b |

<評価の考え方>

この検定では、参考図書の紹介とともに「野鳥や自然に配慮しながら、バードウォッチングを楽しむ」「身近にどんな鳥がいて、どのように暮らしているかを知る」ために役立つ知識を提供したいと考えています。

採点の結果、皆さまが何級となったかは、年内にご自宅に送付する予定です。下記のA・B2つの分野で、「A5点、B2点以上の得点で5級」のほかは、A・Bそれぞれが「15点以上で4級」、「25点以上で3級」、「35点以上で2級」「45点以上で1級」となります。2つの分野で得点が必要なので、仮にAが50点満点でも、Bが24点以下の場合は4級になります。

「級」は資格ではありません。(財)日本野鳥の会では、野鳥や自然への配慮とともにバードウォッチングを広く普及したいという観点から、問題を構成し、級を設定しています。級はご自分の知識の範囲や程度を知る目安と考えていただき、また、やりがいとして活用いただければ幸いです。

<問題の解説>

配点は各1点です(問題14(54)～(60)のみ各2点)。

A 野外識別の基礎知識(配点50点)

[A. 1 身近な野鳥の識別(配点40点)]

問題1

身近なところに河川や池のような水辺があれば、これからの季節は冬鳥が多くなるのでバードウォッチングにお勧めできます。水辺の鳥は姿が見やすく、体型や動作から「何のなかまか?」がわかりやすいものです。似た鳥が多くて種の名前まではわからないこともあります。しかし、「なかま」がわかれば種を絞りやすくなります。ここではハンディ図鑑「新・水辺の鳥」の「なかまの見わけ方と基本種」(P.12～)から出題し、「さかなを食べる鳥はくちばしが鋭い」「水際にいる鳥は足が長い」など、そのなかまの暮らし方と体型が関係していることにも気づいていただくようにしました。

問題2～5

野鳥を見分けるさまざまなポイントを設問にしました。ハンディ図鑑「新・山野の鳥」では「地域・季節・環境で絞り込む」という見分け方から、大きさの比較、目立つ色や模様、体型や姿勢、鳴き声、歩き方、動作、飛び方、習性などを識別ポイントとして紹介しています。ここでは、繁殖、ねぐら、群れなどの習性についても設問となっています。(21)のねぐらの場所はハンディ図鑑に記載はありませんが、ハクセキレイでは街路樹のほか、橋やビルの隙間もねぐらにします。

なお、(17)～(19)のカササギは、局地的な分布なので選択肢を減らして3択としましたが、近年は北海道や関東の市街地でも観察例が増えています。

問題6

オス・メス、成鳥・幼鳥を見分けやすい野鳥もいます。また、「さえずっていればオス」「交尾で上になるのがオス」「求愛給餌ではプレゼントされる側がメス」など、推測できる行動もあります。

問題7

特別に目や耳がよくなくてもベテランは野鳥を見つける、見分ける、聞き分けるのが早いものです。それは慣れと知識によって「この地域、この季節、この環境ならこれがいるはず」ということが推測できるからです。聞き分けるにも「地域、季節、環境」が重要です。

問題8

(37) は行動が識別ポイントになる例です。正解の「頭を下にして木の幹にとまる」ことができるのはスズメ目ゴジュウカラ科の特徴で、キツツキのなかまは頭を上にはしています。

[A. 2 識別に役立つ用語、道具、心得 (配点10点)]

問題9

(42) (43) は、「翼の羽がどのようにたたまれるか」を知っていただく設問です。例えば、カルガモの青く光る次列風切羽が、翼を下げたり広げたりすると見えるようになるのはなぜでしょう？ 翼を広げた時に外側になる初列風切羽から内側にたたまれていくので、翼をたたんだ状態では三列風切羽が上になり、次列風切羽はその下に隠れるようにセットされるのです。

問題10

(47) のつがい関係については、「ペアか、否か」を見分ける参考になります。秋冬は、2羽の小鳥が一緒にいただけではペアとは言えず、生存率が低い自然の状態では、繁殖期以外はペアや親子の関係はないのが原則と考えられます。ただ、詳しく調べられているわけではありません。互いが生きのびた場合にはつがい関係が続くことも考えられるし、カラスでは、冬もペア特有の相互羽づくろいという行動が見られます。

(48) の亜種の識別については、この検定では問いません（野外識別が難しい僅かな違いでも亜種に分けられている種もあるため）。ただ、亜種まで見分けられると、その鳥がどこから来たかを推測できます。例えば、南西諸島のヒヨドリは胸に茶色味があり本土のヒヨドリとは別の亜種とされているので、沖縄などで冬に見られる胸に茶色味がないヒヨドリは本土の亜種が南下してきた可能性があります。

問題11

最初の段階から、双眼鏡で茂みの中の小鳥を見ようとして、自信をなくす人が少なくありません。「新・山野の鳥」(P.53) では、双眼鏡で見やすい対象からそうでないものへと、順を踏んで慣れることをお勧めしています。

問題12

「思う」「感じる」もバードウォッチングですが、種の名前を記録に残す場合には具体的、客観的な識別根拠が必要になります。また、わかった範囲をメモしておく、人に聞いたり後から調べる場合に役立ちます。

B バードウォッチングの総合的な基礎知識（配点50点）

[B. 1 鳥や自然への接し方（配点30点）]

問題13

「野鳥は法律上むやみに捕ることができない、飼うことができない」「野鳥やそのすみかを守るための国際条約もある」ことを知っていただくため、「新・水辺の鳥」の「野鳥の保護に関する法律や条約」(P.54～) から出題しました。

問題14

バードウォッチングを楽しむ人が増えることが、野鳥の暮らしを脅かすことにならないように、ハンディ図鑑は2冊とも「フィールドマナー」を標語としてまとめてあり、そこからの出題です。検定問題の配点は1問1点が原則ですが、このフィールドマナー関連7問のみは1問2点になっています。

(55) は野鳥の知識ではありませんが、フィールドマナー「や・さ・し・い・き・も・ち」の「や:野外活動むりなく楽しく」で「自然は人のためだけにあるのではありません」と解説しているように、安全管理の心得や知識も楽しいバードウォッチングには欠かせません。

(60) では「ヒナをもといた場所にはなして、そこで親鳥を待つ」がよいと思われるかも知れませんが、人が待っていると潜んでいる親鳥が警戒してヒナに近づけないことがあります。ヒナがカラスやネコにやられないかと心配な場合は、近くの茂みの中にヒナをおいておくといいでしょう（親鳥は、姿が見えなくても声でヒナを見つけます）。

問題15

「野鳥を呼ぶには知識が必要」ということを紹介した「新・山野の鳥」(P.55～) からの出題です。(63) で狭くても浅いことが水場の第一条件となる理由は、飛び込んで水浴びをする、つまり水場が深くてもよい種が少ないためです（身近な鳥ではツバメ、時にヒヨドリが飛び込み式の水浴びをする）。

問題16

(64) では、スズメの親鳥がヒナを巣立たせる2週間に一日平均300回も虫を運んだ記録があり、小鳥の子育てにはたくさんの虫が必要です。(65) では虫の姿が次第に見えなくなる秋に多くの木の実が色づくので、目がいい鳥に実を目立たせることでタネを運んでもらう植物の戦略がうかがえます（ただし、シメのような太いくちばしでタネを割って食べる鳥、シジュウカラのように足で押さえてついて割る鳥もいます）。(67) は、野鳥は環境によってすみわけているので、高山や草地のような環境が多様でないところでは種が少ないと考えられるでしょう。

問題17

「全人類共通の最大課題とされる地球環境問題を解決するには、持続可能な社会を目指すことが必要」と言われますが、持続可能な自然のしくみやその基盤となる生物多様性など、バードウォッチングから学べることもあると思われます。(財) 日本野鳥の会も参加している自然体験活動推進協議会（通称：CONE）による共通カリキュラムの「2. 自然の理解」では「地球とヒトの歴史」「自然のしくみ」について知ることがポイントとされており、ここでは、ほ乳類の霊長目ヒト科に分類される種についても設問に含まれています。

(70)にある種の定義は簡単ではありませんが、種は野外識別の基本単位であるだけでなく、生物多様性を守るにも「遺伝的に独立している」というとらえ方が重要になってきているので、ハンディ図鑑に記載した用語の範囲で設問にしました。

[B. 2 総合的知識や幅広い視点 (配点20点)]

問題18～19

どんな鳥でも「何をしているのか？」を気にして見ると興味深いもので、行動や習性の知識がバードウォッチングの楽しみ方を広げてくれます。(80)の巣材についてはハンディ図鑑に記載がありませんが、コケを使うのはシジュウカラ科に共通しています。(81)は次ページのイラストを参照下さい。

問題20

ハンディ図鑑では、種ごとの解説の前に赤い字で「科」について解説しています。科ごとの知識はなかまの見分けや、体系的に鳥を知る上で役立ちます。(82)のようにスズメのなかまがアフリカに多いということは、これらの発祥の地がアフリカと考えられます。ホオジロ科やミソサザイ科の鳥ではアメリカ大陸に多くの種がいるので、アメリカからユーラシア大陸や日本に広がったと考えられています。

問題21

(85)の矢印の部分は、「ひざ」と思っていた方もいらっしゃるかもしれませんが、「ひざ」であれば曲がる向きが反対になるはずです。鳥の足はかかとから下が長く、「ひざ」は外から見える足の付け根に位置します。

問題22

鳥の体重についてはデータが少ない上に個体や時期による違いもありますが、ツバメでは9～15グラムというデータがあり、スズメ(18～26グラム)より軽いのが普通です(ツバメは翼や尾羽が長いので、体のサイズよりは大きく見えます)。

問題23

(8)でキジバトは北海道では冬を越さない、(40)でトビは南西諸島ではまれ、とわかるように日本国内でも北と南では鳥の分布が違います。図鑑によっては1年中見られるとされるカワラヒワですが、南西諸島では春と秋に少数が通過する程度で、繁殖や越冬はしていません。

また、日本では広く普通に見られても、世界的に見た場合は狭い分布という鳥もあり、第2回ではヒヨドリを出題しました。カモメのなかまでは、ウミネコが比較的分布が狭く、ユリカモメはユーラシア大陸に、セグロカモメでは北半球に広く分布しています。

問題24

(92)は「新・水辺の鳥」(P.56)に記載があります。(93)は野生化した飼育鳥が野外で見られることが増えているので設問としました。ヨーロッパではハイイログガン、中国ではサカツラガンを原種としてガチョウがつくられました。

身近な樹上で見られる古巣

- ①ハシブトガラス
- ②カワラヒワ
- ③メジロ
- ④キジバト
- ⑤ヒヨドリ



<日本野鳥の会ご入会はこちらへ・・・>

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室

電話 03-5358-3510 (月～金 10時～17時)

ファックス 03-5358-3608

電子メール siryou@wbsj.org

ホームページ <http://www.wbsj.org>

<参考になるホームページ>

環境省 <http://www.env.go.jp>

財団法人 日本鳥類保護連盟 <http://www.ask.ne.jp/~jspb>

財団法人 山階鳥類研究所 <http://yamashina.or.jp>

財団法人 日本自然保護協会 <http://www.nacsj.or.jp>

財団法人 世界自然保護基金ジャパン (WWFJ) <http://www.wwf.or.jp>

特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会 <http://www.cone.ne.jp>

<参考になるCD>

検定の参考図書としたハンディ図鑑に対応したCDができました。「新・山野の鳥」に対応する「CD声でわかる山野の鳥」(1,900円税別)と、「新・水辺の鳥」に対応する「CD声でわかる水辺の鳥・北や南の鳥」(2,000円税別)です。お求めは、日本野鳥の会通信販売 (Tel. 03-5358-3515、梱包送料税込680円) のほか、最寄の書店でもお取り寄せいただけます。

今後のバードウォッチング検定につきましては、日本野鳥の会ホームページ (<http://www.wbsj.org>) や会誌「野鳥」での告知のほか、今回参加いただいた方にはお知らせをお送りする予定です。